



「宗教は人間の苦悩を救うのではありません。苦悩する人を救うのです」と姫路医療センター小児科医長の梶原敬一先生は、著者『生きる力』で述べられています。

私たちは目の前に起こる様々な不都合に苦悩し、振り回され続けている人生ではないでしょうか。それは私たちが「当てにならないものを当てにして」生きている現実があるからではないでしょう。健康もお金も物も、たとえ人であったとしても私の思い通りにはならないものなのです。

仏様はそんな私たちに早く目を覚ますようと、はたらきかけてくださっているのです。

私たちは幸せに生きたい、なりたいと願っているのですが、本当に幸せになるためには私たち一人ひとりが仏様から願われている尊いのちに目覚めていくことが大切なことなのです。

たとえどんな環境にしようとも、私が私であって本当に良かったと思える人生を歩むことです。それは目の前の現実をしっかり受け止めた生きかたをすることでもあります。

仏様の明るい光に包まれて生きる世界から、目先の薄っぺらな幸せ観を乗り越えた先にある、確かな大地に生かされている、私が見えてくるはずなのです。

秋季永代経ののご案内

九月二十三日 秋分の日

講師 N S 師



お彼岸とは、一般的にはご先祖の供養をする

仏事とされ、この時期になると、先祖のお墓やお手次のお寺にお参りするため、遠いところに住んでいる人たちも故郷に戻ってきます。しかし、お彼岸といつのは、亡き人に供物を捧げ、追善する事で自分の無事を祈願する行事ではありません。

彼岸とは、阿弥陀仏の浄土を指します。浄土は私たちが還っていく世界であると同時に、迷いの世界である此岸に生きる私たちの在り方を照らし、そのような生き方ではないのですかと問いかけてくる世界です。

お彼岸は、浄土へ還っていかれた亡き人を偲ぶとともに、あらためてそのような問いかけに耳をかたむけ、自分の生活を振り返る大切な時です。

東本願寺発行

お彼岸『より

今月の学習会は十三日(土)です。毎月第五曜日 七時より

若院法話

十分程度

学習内容

雑行雑修について

座談会

お茶とお菓子をいただきながら、日々の思いを語り合います。



誰のための、何のための寺なのか。

そう考える時、現在の寺のあり方には少々疑問を感じています。

本来の間法道場としての働きはあるものの、年に数回の活用だけでは十分なあり方には程遠い気がしています。月に一度は学習会で使用はするものの、年間の稼働率は知れたものなのです。

寺の在り方

— これからの課題 —

多くの「寄付をいただき立派に改修工事をし、御遠忌法要をしたもの、その後どれだけの「門徒の方々に、寺へ足を運んでいただく機会があったのか、それを考えると大きな課題を担ったなど、思っています。

お寺がもっと日常的で身近な存在になることを願い、皆さんの積極的なご意見をお聞きしたいと思っています。

9月30日(月)～
10月1日(火)

本山奉仕団として研修の旅へ

参加者 14名

今回光受寺で計画いたしましたこの行事に、多くの方からのご参加希望をいただき、誠に有り難く思っております。わずか一泊ではありますが、寝食を共にしながら研修を積んできたいと思っております。

今回は光受寺ご遠忌関連の行事として計画をいたしましたので、参加者一人ひとりが、その自覚を持って参詣をし、感謝の思いをよりいっそう深めてまいりたいと思っております。

帰りには親鸞聖人のゆかりの寺めぐりとして、岡崎別院へ参詣いたしてまいります。門信徒の皆様方のご理解とご協力に感謝いたします。10月号にて報告させていただきます。 合掌

人生やろ国かいろなわわわわわ、生かろ国かいろなわわわ

今年の夏は格別に暑い感じがしました。

蝉はこの暑さを楽しむかのようになり、精いっぱいこの声で鳴き続けています。

あちらこちらで羽化する姿も見られます。

格別珍しくはない光景に、しばし心奪われ見入っていました。

長い間土中で息をひそめるようにこの日を待ち望んでいたかのでしょうか。たったひとり「命がけの羽化が始まりました。」

外敵に襲われるには、最適の状況にも関わらず、その無心な姿は美しいものでした。やがて数時間のドラマは終わり、立派な成虫の蝉となっていました。

人間でいうならば「人間が人間になる」という事でしょうか。

たとえわずかに一週間でも、地上で命燃やせる蝉のように生きられたら、人間に生まれてきてよかったと実感のもてる人生になるのではないかと思うのです。

健康で長生きして、平穏で快適な生活を送ることにのみ心と体を砕き、残されたわずかな人生を費やして生きている自分の姿が、この蝉の姿を通して浮き彫りにされた気がいたします。

あと何年生きられるかと言いつき算の人生から、今日も生きさせていたただくことができたといい足算の人生への転換が、今ある生への感謝として輝きを増すのではないかと思われるのです。

うーん、と。



なんとも愛らしい。小さな翅と眼です。



あつこう間に翅が成長しました。



私はセミなのです。

立派なセミの成虫になりました。翅に色も付き始めました。

投稿お願いいたします。

題材は自由です。

日頃の思いや気づきの言葉、趣味、何でも結構です。